

II 山梨県の巨樹・名木

1. 山梨の自然環境の概要

本県は、日本列島のほぼ中央部に位置し、周囲を富士山、南アルプスをはじめとする高山に囲まれた内陸県です。

地形をみると、山系は、甲府盆地をほぼ中央にして、西部には南アルプス（赤石山地）、巨摩山地が並列して南北に連なり、北部から東部にかけては八ヶ岳、関東山地、南東部には御坂山地、丹沢山地の一部である道志山地がそびえています。

地質的には、南アルプスと桂川の北側で、大菩薩嶺の東側に連なる山地及び多摩川上流・奥秩父山地の岩石は、四万十層群と呼ばれる薄くはげやすい粘板岩などからなる中生代から新生代初期の地層や風化しやすい花崗岩から成り立っています。また、巨摩山地、御坂山地の大部分は、海底火山の噴出物でもあるグリーンタフと呼ばれる緑色凝灰岩からなり、関東山地から大菩薩嶺、笹子峠、御坂山地へ連なる山々は、花崗岩等深成岩によって形成されています。また、南東から北西にのびる富士火山帯に沿った方向には、富士山、茅ヶ岳、八ヶ岳などの火山が並び広大な裾野を有しています。

水系は、御坂山地を境とした西側には駿河湾に注ぐ富士川水系の釜無川、笛吹川があり、この流域は、県土の約四分の三を占めています。東側には、相模湾へ注ぐ相模川水系の桂川が、その他北東部で多摩川水系の丹波川、小菅川などがあります。

周囲を高い山々に囲まれた本県は、太平洋岸や日本海岸に比べて降水量が少なく、夏は暑く、冬は寒い気候です。また、昼夜の気温差も激しく、盆地特有の内陸的気候を示しています。年平均気温でみると、県南部や東部で比較的暖かく、北部や西部の山岳地が寒冷地となっており、年降水量は、県の南部や西部山岳地が、九州並みの多雨地帯で、北部山岳地が少ないことが特徴となっています。

2. 山梨の植生

本県は、県南部の富士川の最低点80mから最高点は富士山の3,776mと標高差が大きく、そのため暖帯から温帯、亜寒帯、寒帯と植生分布を全体にわたって見ることができます。まず、暖帯に属するのは、県南部の富士川沿岸から甲府盆地、さらに平地から低山地にかけての海拔300mぐらいまでの地域、県東部の桂川流域などで、この地域は、スギ、ヒノキなどの針葉樹林やケヤキ、シラカシ、アラカシ、ウラジロカシ、ヤブツバキ、クヌギ、コナラなどの広葉樹林で占められています。この地帯から海拔1,800mぐらいまでの間は、ヒノキ、カラマツなどの針葉樹林やミズナラ、ブナの温帯落葉広葉樹林が生育する地域です。

富士山、南アルプス、八ヶ岳、関東山地等の海拔1,800mから2,500mの間は、亜寒帯（亜高山帯）に属し、シラベ、コメツガ、オオシラビソなどの針葉樹林からなり、その中にダケカンバが混生しています。富士山では、この帯の上部にカラマツ林が発達しています。南アルプス、八ヶ岳、関東山地の海拔2,500m以上の寒帯（高山帯）にはハイマツが生育しています。山梨の植物は、種類も多く氷河時代の遺存植物であるキタダケソウなどの貴重な植物をはじめ、巨樹や古木も多く見られ、将来にわたって大切に保護していく必要があります。

次のとおり定義しています。

- ・ 胸高幹周（地上1.3m）が概ね300cm以上の樹木
- ・ 巨樹の大きさに達しないものの、天然記念物や保存樹木に指定されているもの及び優れた樹形や希少性質等を有する樹木

学術的な価値の高い樹木は、その価値に応じて国、県、市町村により天然記念物に指定されています。天然記念物には、植物、動物、地質鉱物がありますが、巨樹・名木は、歴史的、文化的に日本人の生活に密接な関わりがあることから、天然記念物のうち、高い割合を占めています。

山梨県では、特に多くの樹木が天然記念物に指定されています。県指定の天然記念物のうち、単木の天然記念物が79%を占めています。

ふるさとのみどりの遺産調査報告書の概要

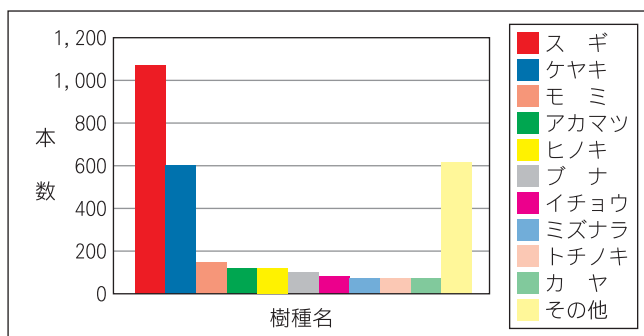
平成14年9月30日現在

○調査期間 平成9年～平成12年 ○調査報告者 (社)山梨県林業研究会 ○調査対象の基準 (ア)巨 樹 胸高幹周(地上1.3m)が300cm以上の樹木及び樹林 (イ)その他 i 巨樹の基準に達しないが基準に近く、形質が優れているもの ii 巨樹の基準に達しないが天然記念物等に指定され、希少性が高いもの iii その他「みどりの遺産」に相応しい樹木。	調 査 結 果		
	確 認 本 数	7,166本	
	内 訳	巨 樹	2,969本
		その他	4,197本
	確 認 種 数	188種類	

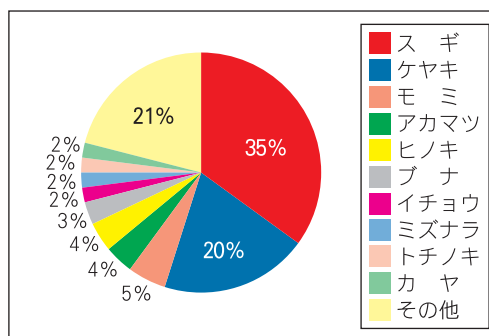
(1) 巨樹樹種別本数総括表

順 位	本 数	樹 種	樹 種 数	順 位	本 数	樹 種	樹 種 数
1	1,059	ス ギ	1	26	11	イチイ、エゾエノキ	2
2	587	ケヤキ	1	28	10	シナノキ	1
3	148	モ ミ	1	29	9	ビャクシン、タブノキ	2
4	115	アカマツ	1	31	8	ダケカンバ、ムクノキ	2
5	112	ヒノキ	1	33	7	ミズメ、イロハモミジ、ハリギリ	3
6	91	ブ ナ	1	36	6	トウヒ、イラモミ、ハリモミ、イトヒバ、アカメヤナギ	5
7	73	イチヨウ	1				
8	63	ミズナラ	1	41	5	コウヤマキ、ドロノキ、クヌギ、イタヤカエデ、シオジ、プラタナス	6
9	58	トチノキ	1				
10	56	カ ヤ	1	47	4	イヌシデ、アサダ、ウラジロカシ、クリ	4
11	49	エノキ	1				
12	45	ウラジロモミ	1	51	3	アスナロ、スダジイ、ハルニレ、ヤマザクラ、ムクロジ、シンジュ、ボブラ	7
13	36	シラカシ	1				
14	35	ツ ガ	1	58	2	ヒメバラモミ、メタセコイア、オニグルミ、サウグルミ、コゴメヤナギ、オオバヤナギ、アラカシ、オオツクバネガシ、カゴノキ、サクラ、ウワミズザクラ、ホウノキ、サイカチ	13
15	27	エドヒガン	1				
16	26	シダレザクラ	1				
17	24	コナラ	1				
18	23	カツラ	1				
19	22	ソメイヨシノ	1	71	1	ゴヨウマツ、ネズミサシ、ヒムロ、ヤシヤブシ、クマシデ、イヌブナ、カシウ、アカガシ、ツクバネガシ、アズキナシ、コブシ、フジキ、センダン、ヤマガキ、ヒイラギ、ヒイラギモクセイ、アメリカキササゲ、セイヨウハコヤナギ	18
20	19	クスノキ	1				
21	18	カラマツ	1				
22	17	コメツガ	1				
23	14	クロマツ	1				
24	13	サワラ、ヒマラヤスギ	2				
合 計						巨樹総本数 2,969本	88

①巨樹本数上位樹種総本数



②巨樹本数上位樹種占有比



3. 主な巨樹・巨木林の位置図

